

新しい「日供講」について

さる3月28日午後、實相寺責任役員会、及び花園会役員会を開催しました。花園会の決算・予算については来たる6月13日の花園会総会で皆様にお諮りしますが、實相寺の事業・予算は責任役員会が議決機関です。そこで決定された新事業、「實相寺日供講」の概要についてご説明します。

日供講とは、寺社を護持するために日々の仏飯や神饌を御供えする集まりで、江戸時代頃から行われています。このたび實相寺でも日供講員を募り、将来への持続可能な寺院運営に取り組んで参りたいと思います。

ついては、日供講の趣旨にご賛同頂ける方は、ご協力の程、宜しく願ひ申し上げます。詳細は6月の総会時に

ご案内申し上げます。

實相寺日供講の概要

- 志納金 毎月3千円(一日100円)
(花園会費・護持積立金を含みます)
- 日供講の方は、葬儀や法事のお布施を不問とします。また法要時は本堂の使用も無料です。

●さらに特典として十年以上、継続された方は、無縫塔にご本人または親族1名の納骨ができます。また2名以上希望の場合も個別にご相談に応じます。以上が、日供講の大まかな概要です。日供講の目的は新会員を募集して、お寺の安定的な運営をめざすことですが、皆様の将来への不安や経済的負担の解消にも繋がると考えます。先ずは現在花園会員である皆様のご賛同、ご支援を心よりお願い申し上げます。

實相寺
花園会報

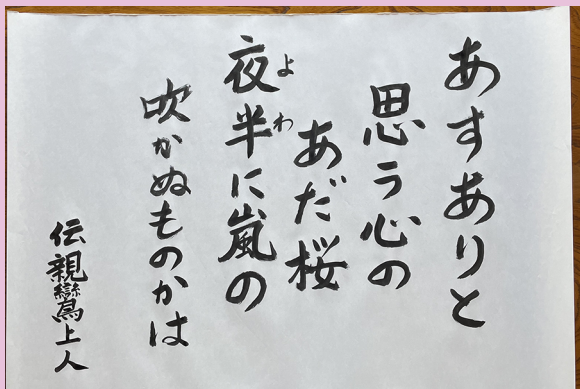
令和三年
四月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第144号

お寺の掲示板

今年は例年よりも桜の開花が早くて、お寺の桜も墓地は既に葉桜になっていますし、おもての池の堤もすでに満開です。

三月は週末毎に雨が降った割には、長く桜を楽しめました。が、やはりいつまでも、という訳にはいきません。「明日があるさ」と思っていると、思わぬ嵐に足下をすくわれてしまう、そんな世の無常を歌った道歌です。



お釈迦さまの伝記・仏伝について④
前置きが長くなりましたが、いよいよ具体的なエピソードに入ります。

菩提樹の下で悟りを開いたお釈迦様は、数十日間場所を変えながら坐禅して、解脱の安楽を味わっていました。そこへタプッサとバツリカという二人の商人が通りがかります。その時、二人の守護神が現れて、「あそこに坐っている人は悟りを開いた尊い人だ。大きな功德があるからあの人に食べ物をお布施なさい。」と告げます。そこでタプッサとバツリカは、持っていた食べ物をお供養しようとするのですが、お釈迦様は何一つ持っていなかったのです。受けとる器がなく困っていました。すると、空の上からそれを見ていた四天王が四つの石を持ち寄って一つの鉢を作り、それをお釈迦様に献上したので、お釈迦様は無事に食べ物を受けとることが出来ました。食べ物を布施した二人の商人は、お釈迦様に礼拝して、帰依することを誓い、立ち去りました。この二人は仏教史上、最初の在家信者となりました、というお話です。

このお話が重要なのは、初めての信者が出来たということもありますが、それ以上に重要なのが、鉢で食べ物を貰ったということです。自分の力で稼いだり、自分の力で作った食べ物ではなく、お釈迦様は他人が鉢の中に入れてくれた食べ物を頂きました。

これ以来、仏教では他人が鉢の中に入れてくれた食べ物しか、食べてはいけない、という原理原則が生まれます。一見、僧侶がお寺の裏の畑で作った野

菜を食べる、というのは当たり前のことの様ですが、本来の仏教では僧侶の自給自足は禁じられています。

全て他人から貰い、完全に社会に依存することによって、自由な修行生活を得るというのが仏教ですから、たとえ道に落ちていた誰の物でもない食べ物でも、自分で拾って鉢に入れてはいけません。全ては他人の好意に任せる、というのがお釈迦様以来、二千五百年間、今もタイやスリランカでは続いている仏教の原理原則です。自分で口に入れていいのは水と歯ブラシだけです。

なぜお釈迦様がこうした原則を作ったかという、自分で食を得ようとする、最大の目的である修行が出来なくなるからだ、佐々木先生は仰います。僧侶は本来修行するために出家し

た筈ですが、生産しようとする、そこに執着が生まれます。

また、現代では依存することは悪いことであり、自立することを尊びますが、昔から偉大な科学者や芸術家は、皆パトロン等に依存していました。寝食を忘れて自分の仕事に熱中しているからこそ、支えてくれる人が現れるのです。社会に依存して生きるためには、その人が立派で誠実でなければ生きていきません。お釈迦様はそういうことをよく理解していた人だと、佐々木先生は仰います。つまりお釈迦様は組織設計として、仏教の修行者には、自己中心的な我欲を放棄する生き方を求めたのです。



佐々木先生の動画